SOKENDAI

総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻 2025

国際日本研究コース 概要

Japanese Studies Program, Graduate Institute for Advanced Studies, SOKENDAI

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国際日本文化研究センター

National Institutes for the Humanities
INTERNATIONAL RESEARCH CENTER FOR JAPANESE STUDIES

総合研究大学院大学の組織について

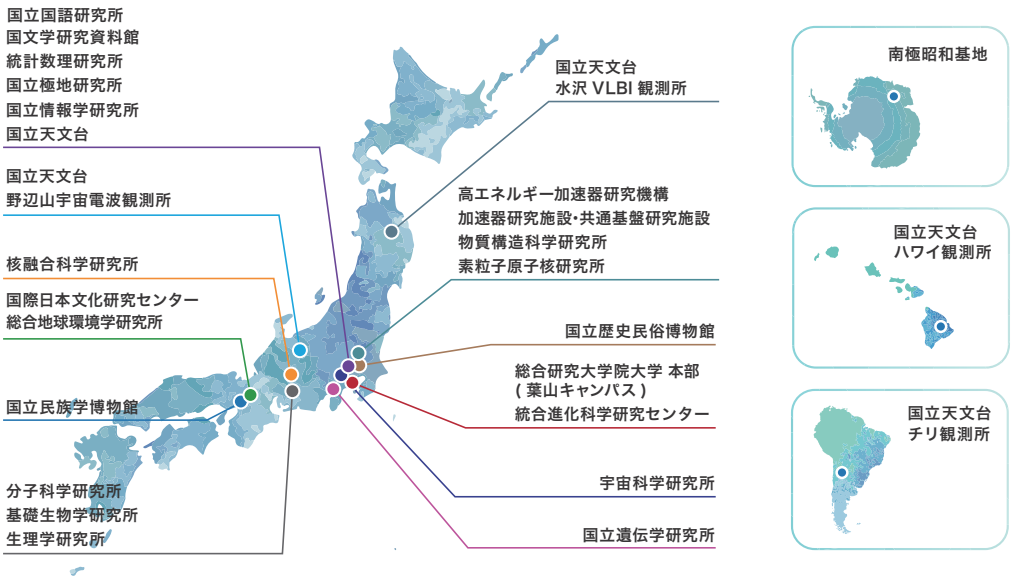
● 教育研究組織

- 総合研究大学院大学
  - 運営会議
  - 先端学術院
    - 教授会
    - 先端学術専攻
  - 附属図書館
  - 統合進化科学研究センター
  - 教育企画開発センター
  - 学術情報基盤センター
  - 事務局
  - 内部監査室

20コース	基盤機関
人類文化研究	国立民族学博物館
国際日本研究	国際日本文化研究センター
日本歴史研究	国立歴史民俗博物館
日本文学研究	国文学研究資料館
日本語言語科学	国立国語研究所
情報学	国立情報学研究所
統計科学	統計数理研究所
素粒子原子核	素粒子原子核研究所
加速器科学	加速器研究施設・共通基盤研究施設
天文科学	国立天文台
核融合科学	核融合科学研究所
宇宙科学	宇宙科学研究所
分子科学	分子科学研究所
物質構造科学	物質構造科学研究所
総合地球環境学	総合地球環境学研究所
極域科学	国立極地研究所
基礎生物学	基礎生物学研究所
生理科学	生理学研究所
遺伝学	国立遺伝学研究所
統合進化科学	統合進化科学研究センター

- 人間文化研究機構
- 情報・システム研究機構
- 自然科学研究機構
- 宇宙航空研究開発機構
- 高エネルギー加速器研究機構
- 総研大本部（葉山キャンパス）

● 大学共同利用機関等の所在地



所長・コース長の挨拶

基盤機関
国際日本文化研究センター所長として

所長　井上 章一

総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻の国際日本研究コースは、国際日本文化研究センター（以下「日文研」）を基盤として設置されています。日文研は、国際的な視点から日本文化を学際的・総合的に研究するとともに、海外の日本研究者に対して研究上の便宜や研究協力を行うことを目的として設立された大学共同利用機関です。国内外の人文学・社会科学、あるいはその関連分野における日本研究の一翼を担いつつ日本研究を深化させるとともに、日本文化研究に関する情報の収集・提供のための諸活動も行っています。

国際日本研究コースでは、日文研の優れた研究者と恵まれた研究環境をベースに、国際的な視点から日本文化に関する教育研究を行い、国際的・学際的な教育研究活動を通して国内外の若い研究者を育成することを目指しています。そのために、優れた外国人留学生も積極的に受け入れています。こうした使命を達成するために、教育面では単一の大講座のもとに多角的な視点から日本研究が可能となるようなカリキュラムを編成し、特徴ある柔軟な教育・研究体制を整えました。日文研が重視している他分野・他機関の研究者たちとの「共同研究」のための環境も整えています。日文研で研究を志すひとたちが、これらの優れた教育研究環境を活用し、立派な研究成果をあげて博士の学位を取得されることを期待しています。

国際日本研究コースについて

コース長　榎本　渉

本コースは学際性の高い研究環境を提供しています。これは担当教員リストからも一目瞭然です。各教員はそれぞれ異なる切り口で日本文化の研究に取り組んでいます。各々の専門分野のエキスパートでありながら、さまざまな研究分野を横断的に扱う能力を兼ね備えている教員が集っています。本コースに入学される院生の皆さんは、指導教員のみならず、複数の教員から受ける指導のもとで、広い視野に立った研究能力を身に付けていくことができます。また、共同研究会やシンポジウム、セミナー、プロジェクトなど、基盤機関である国際日本文化研究センター（日文研）の学術研究の現場に触れていただくなかで、学際的精神を養い、日本研究の未来を担う研究者に成長していくことが期待されています。

学際性に富む一方で、日文研の活動は国際的にも展開しています。海外での学術イベントの開催運営や参画のほかに、毎年、海外の第一線で活躍している研究者の方々を一定数招聘しています。これらの研究者たちとの交流は、院生の研究生活を豊かにし、博士論文執筆に役立つ新鮮な着想にもつながります。また、総合研究大学院大学のほかの基盤研究機関を母体とするコースのなかで、国立民族学博物館・国立歴史民俗博物館・国文学研究資料館・国立国語研究所・総合地球環境学研究所などは分野的に親和性が高く、授業科目履修を通じ他コースの学生との交流の機会もあります。

こうした国際的かつ学際的な研究環境の中で、将来的に国内外の学界で活躍していける研究者を育てていくことが本コースの使命です。グローバルな視点に立った独創的な研究を志す方を歓迎します。

コースの概要

人文科学・社会科学・自然科学にわたる国際的・学際的な日本研究(Japanese Studies)をすすめるため、全教員が参加し多角的な教育・研究指導を行います。

授業科目としては、「日本研究基礎論」「学際研究論」「先端学術院特別研究」などを置き、国際的な観点から「日本研究」の理論的・方法論的な指導を行っています。これらの研究と研究指導を推進することにより、創造的で高度な専門的視野と、幅広い学際性、複数の分野を横断しうる総合性を備えた研究者の育成を目指しています。

設置の目的

国際日本研究コースは、国際日本文化研究センターがもつ多様な研究者と優れた研究環境をもとに、国際的・学際的な視野で日本の文化と文明について教育研究を行い、高度で視野の広い国際性豊かな研究者育成を目的としています。

● 令和７(2025)年度開講科目

教育研究指導分野	授業科目	概　要	担当教員
選択科目	日本研究基礎論	各教員の携わっている最新のテーマ及びその目的や方法論を語り、日本研究の最前線の講義と、日本研究の基礎となる理論的・方法的枠組みを明確化する研究を行う。	全教員
	学際研究論	学際的な論文作成の推進のために口頭発表及び質疑応答の練習を行い、博士論文執筆を具体的に促す。	全教員
	シンポジウム等運営実習	本コースの基盤機関である国際日本文化研究センターが企画するシンポジウム、セミナー、共同研究会等の計画運営に参加することにより、その運営方法を体験実習する。	関係教員
必修科目	先端学術院特別研究	論文作成のために必要な講義・演習・実習を個別にプログラムし、関係教員の協力を得て実施する。	指導教員及び関係教員

複数教員指導体制

本コースでは、主任指導教員のほか、２名の副主任指導教員の指導を仰ぎます。

また、それ以外のコース教員や外国人研究員に随時相談をすることも可能です。

教員が主催する共同研究への参画、基礎領域研究などでの研練、さらに日文研に集う国内外の日本研究者によるセミナーなどに参加することができます。

こうした刺激に富んだ恵まれた研究環境にあって、学位の取得をめざします。

日本研究基礎論　授業風景

研究環境と学生支援について

学生支援

調査・研究に必要な移動経費・学会参加費・文献複写経費等の支給のために、大学院生研究プロジェクト経費、海外学生派遣事業経費などが用意されています。

また、論文作成の上で必要な物品及び図書の購入希望も申請できます。

院生室

奨学金制度

私費外国人留学生の修学を促進するため、以下のような奨学金制度が整備されています。応募者数が定員を超えた場合は、内部選考を行います。

・(一財)国際日本文化研究交流財団奨学金　等

また、日本人学生は、日本学生支援機構奨学金に応募することができます。

国際日本文化研究センター図書館の利用

学位授与、修了までの流れ

入　学

↓

D１～D３　研究計画書作成
研究指導
（選択科目）日本研究基礎論
学際研究論（発表）
（必修科目）先端学術院特別研究

↓

D１～D２　中間報告論文提出

↓

D３　博士論文予備審査

↓

博士論文本審査

↓

文化科学領域教育会議による
学位授与の認定

↓

学位授与、修了

在学生からのメッセージ

国際日本研究コースへようこそ

李　家明

国際日本研究コースは、国際的かつ学際的な日本研究の重鎮として知られる国際日本文化研究センター（日文研）に設置されています。在学生がもっとも恵まれていると感じているのは、何よりも充実した研究環境と、安心して学べる支援制度です。

日文研の図書館には、豊富な資料が所蔵されているだけでなく、研究者や学生が必要とする書籍や論文が所蔵されていない場合には、国内外からの取り寄せにも対応しています。私は道元の禅思想を研究しており、このような支援制度を活用することで、日本語・中国語・英語の必要な書籍を数多く揃えることができました。また、所内では多岐にわたる分野の先生方や外国人研究員が主催する共同研究会、シンポジウム、講演なども頻繁に開催されています。こうした様々な研究活動に参加することで、知識や研究方法を学ぶだけでなく、異なる専門分野からの刺激を受けて視野を広げることができます。

さらに、研究補助を担うリサーチ・アシスタント（RA）の雇用制度や、調査・学会発表にかかる経費を支援する制度など、研究活動を支える経済的な支援も充実しています。こうした制度に支えられながら、研究に専念できる恵まれた環境のもとで、将来の研究の土台を築くための確かな一歩を踏み出すことができています。

担当教員の紹介

（令和7年7月1日現在）

❶専門分野　❷現在の研究テーマ

榎本　涉 教授（コース長）

❶中世国際交流史

❷私の研究テーマは、9世紀から14世紀の日本と海外との交流です。この時代の日本は外交に関心が低かった一方で、民間主導の交流は前後の時代よりも盛んでした。その具体相を主に貿易商人と渡航僧に着目して研究しています。

磯田 道史 教授

❶日本史学

❷近世中後期の幕藩政改革を研究しています。さらに東日本震災後は、歴史地震津波の史料を調べ解読し防災に役立てる試みをはじめました。また最近では、自治体と連携し、伊賀・甲賀など忍び（忍者）の古文書を調査しています。

磯前 順一 教授

❶宗教学、批判理論

❷悪行を行いながら、自分を善良だと思う姿に人間の本質を見るような気がします。そうした心の働きの中で神という観念も、差別という現象も発生してくるのではないでしょうか。それが私が宗教に関心を持つ理由です。

伊東 貴之 教授

❶中国思想史、東アジア比較文化交渉史

❷中国における哲学･思想の歴史について、広く日本や韓国・朝鮮などを含む東アジア文化圏の中に位置づけて、研究しております。また、場合によっては欧米を含む、よりグローバルな視座で、比較や交流の視点も加味して、考察しています。

楠　綾子 教授

❶日本政治外交史、安全保障論

❷アジア太平洋戦争以後の日本の外交・安全保障政策は、占領から講和にかけての時期に形成されました。それが長期にわたって基本的に維持されたのはなぜなのか。19世紀以来の国際関係史の文脈と冷戦期の国際政治、国内環境の文脈の交錯が生み出したものはなにかを考えています。

関野　樹 教授

❶情報学

❷時間に基づいて情報の可視化や解析を行うための研究開発をしています。これらの成果は、“HuTime”などのソフトウェアやWebアプリケーション、和暦などの日付を扱うための基盤データとして、一般に公開しています。

戦　暁梅 教授

❶近代日中美術交渉史

❷文化史の視点から近代日中美術の形成、変遷において、西洋の影響と異なる内的要因の究明を目指しています。日中共通の絵画ジャンルである文人画を含めた伝統画壇の共通する運命や相互関係、また日本人美術家の旧満洲体験を追跡し、考察しています。

タイモン・スクリーチ 教授

❶江戸時代の歴史

❷1．江戸時代の視覚文化や美術史。解剖学史と身体論、春画。2.「鎖国」論の考え直しと国際交流。3. 江戸初期の武士神格化（豊国大明神、東照大権現）。全国東照宮のネットワーク。4. 近世の琉球王国の交流史。八重山列島の文化史。

瀧井 一博 教授

❶国制史、比較法史

❷明治立憲体制の成立と展開を知識社会史と国際関係史の観点から考察しています。日本の憲法史を一国の固有な現象ではなく、ウチとソトの視角から捉え直し、国際的に通用するような研究をしたいと考えています。

フレデリック・クレインス 教授（日文研副所長）

❶戦国文化史、日欧交渉史

❷徳川家康、細川ガラシャ、三浦按針の人物像を中心に戦国末期の研究を行っています。最近は足利将軍家についても調べています。また、平戸オランダ商館文書の調査研究を通じて、初期の日欧交渉史の解明にも努めています。

松田 利彦 教授（日文研副所長）

❶日朝・日韓関係史

❷日本統治期朝鮮における医療衛生政策を研究しています。赤痢菌発見者の細菌学者･志賀潔あるいは日文研が個人文書を所蔵している軍医・佐藤恒丸らの朝鮮での足取りを追うことで、日本人医学者の研究と朝鮮統治政策の関係を考えています。

安井 眞奈美 教授

❶文化人類学、日本民俗学

❷妊娠、出産に関する習俗・人間関係・医療の変遷などを解明するため、日本とミクロネシアでフィールドワークを続けています。また人々が、身体のイメージをどのように想像し、図像化してきたのか、民間信仰や医学、美術などが重なり合った分野から明らかにしたいと、研究を進めています。

山田 奨治 教授（副コース長）

❶情報学、文化交流史
❷著作権制度の変化とそれが文化に与える影響、日本の禅やポピュラー・カルチャーなどが海外に伝播したときに起きた変容とそれに対する日本側の応答、デジタル・ヒューマニティーズに関することなどを研究しています。

劉 建輝 教授

❶日中文化交渉史
❷近代東アジアについて、従来の一国史観を乗り越え、西洋近代をともに受容する一文化共同体として捉え直し、日中をはじめとする当地域全体の文化的相互影響、相互干渉を追跡しています。

エドワード・ボイル 准教授

❶境界研究、文化遺産論、島嶼研究
❷近世・近代・現代における境界及び国境の変容や変遷過程に関する研究に従事しています。空間が文化・歴史遺産化される過程について「記憶の境界」という概念を用いて分析を行っています。日本国内に限らず、東北アジア地域や、北東インド、太平洋地域に関する研究も進めています。

片岡 真伊 准教授

❶日本近現代文学、比較文学
❷日本近現代文学の英訳・編集・出版過程、および受容・伝播に関する研究を行っています。なかでも、第二次世界大戦後に英語圏で紹介された場合に焦点をあて、翻訳対象となる文学作品の航跡と変容の内実を考察し、国際的な視野から眼差した際に浮き彫りとなる日本近現代文学の実像と可能性について考えています。

中丸 貴史 准教授

❶日本古典文学
❷古代・中世の日本のテクストを世界に位置づけること、それを社会にひらいていくことを目的としています。キーとなるのは漢文です。日本人の書いた漢文テクストを中心に（最近は藤原忠実の『殿暦』を読んでいます）、『源氏物語』や『栄花物語』、『土左日記』、『讃岐典侍日記』などについて考えています。

太田 奈名子 准教授

❶メディア史
❷戦後日本のラジオ放送、近現代日本のメディアと言語、デジタルアーカイブの教育活用といったテーマを中心に、学術知の社会還元を念頭に置き、日々研究に励んでいます。

磯前 順一教授は、2026年3月退任予定です。
劉 建輝教授とタイモン・スクリーチ教授は、2027年3月退任予定です。
伊東 貴之教授と山田 奨治教授は、2028年3月退任予定です。

学位授与と学位取得状況

● 国際日本研究コースの学位

国際日本研究コースを修了した者には、博士の学位（学術）が授与されます。

● 年度別学位授与者数

年度	(平成)6~15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	(令和)元	(令和)2	(令和)3	(令和)4	(令和)5	(令和)6	計
課程博士	23	6	0	0	3	1	3	1	2	3	2	3	2	1	4	3	2	3	4	1	4	0	71
論文博士	10	1	1	1	0	0	0	0	1	3	4	1	0	0	3	1	1	1	0	0	1	0	29
計	33	7	1	1	3	1	3	1	3	6	6	4	2	1	7	4	3	4	4	1	5	0	100

● 博士学位授与者

課程博士

（入学年度順）

入学年度	氏　名	論文題目	学位授与日
平成12年度	永松　敦	日本における狩猟民俗の生成と変遷に関する歴史民俗学的研究	平成15年3月24日
	伊東　章子	科学・技術をめぐる言説の歴史的展開とナショナル・アイデンティティの変容―両大戦間期以降を概観して	平成15年9月30日
	ウリケル・バハドゥルボアチ	Napoleon wars and International System: with special reference to the Ottoman Empire and Japan	平成17年3月24日
平成13年度	那須　浩郎	The origin and dispersal of agriculture in China and Japan —Archaeobotanical study of Chengtoushan site, Hunan, China	平成16年3月24日
	岩井　茂樹	歌道と茶道における恋歌の諸問題―その歴史的展開と社会的背景について	平成16年9月30日
	中谷　正和	物質文化からみた先史東アジアの調理技術―農耕社会成立期における中国大陸沿岸部と日本列島の事例を中心として	平成17年3月24日
	武藤　秀太郎	近代日本の社会科学と東アジア	平成20年3月19日
平成15年度	李　偉	大名庭園の空間構成に関する研究―江戸時代の庭園における「眺望」―	平成20年3月19日
	堀　まどか	野口米次郎―「二重国籍」詩人の生涯と作品世界	平成21年9月30日
	戸矢　理衣奈	「東京銀座資生堂」：福原信三と企業イメージの構築	平成22年9月30日
平成16年度	酒井　順一郎	清国人日本留学生に於ける教育文化交流―宏文学院を中心にして―	平成20年3月19日
	澤田　晴美	近代日本文化における伝統演劇と近松門左衛門 ―アカデミズム・劇評・役者の身体	平成21年3月24日
平成17年度	中野　洋平	信濃巫女の研究―近世日本における民間宗教者の存在形態とその形成	平成22年3月24日
	横山　輝樹	江戸幕府武芸奨励策の研究―画期としての徳川吉宗―	平成25年3月22日
平成18年度	梅　定娥	「満洲国」文化人古丁の思想的変遷をさぐる―翻訳、創作、出版	平成22年3月24日
	小山　周子	大正新版画の研究―版元を中心とした美術の成立、構造と展開	平成26年3月20日
平成19年度	長門　洋平	溝口健二映画にみる音響と映像の美学―物語構造の視聴覚的分析	平成24年3月23日
	鈴木　堅弘	近世春画・春本の図像研究―その背景表現への考察―	平成24年9月28日
平成20年度	陳　凌虹	中国近代演劇の成立と日本―文明戯と新派を中心に	平成24年3月23日
	徳永　誓子	「融通念仏縁起」の研究―物語絵にみる日本中世の信仰世界―	平成25年3月22日
	岡本　貴久子	「記念植樹」と近代日本―林学者本多静六の思想と事績を手掛かりに―	平成26年3月20日
平成22年度	漆﨑　まり	江戸長唄の基礎的研究	平成26年9月29日
	韓　玲玲	満州における北村謙次郎の文学活動	平成27年3月24日
平成23年度	アントン・ルイス・カビストラノ・セビリア	Exporting the Ethics of Emptiness: Applications, Limitations, and Possibilities of Watsuji Tetsurō's Ethical System	平成27年3月24日
	簡　中昊	近代日本の台湾原住民認識―作家たちが見た「野蛮人」―	平成28年3月24日
平成24年度	栄　元	租借地大連における日本語新聞の事業活動 ―満洲日日新聞を中心に―	平成29年3月24日
	西田　彰一	国体論者としての筧克彦―その思想と活動―	平成29年9月28日
平成25年度	光平　有希	江戸期・明治期日本音楽療法思想 ―養生論及び西洋医学理論の受容史を中心に―	平成28年3月24日
	宇佐美　智之	集落動態にみる北部九州弥生社会の生成と展開	平成30年3月23日
	小泉　友則	日本における「子どもの性」に関する認識・情報の変遷―近世後期から明治後期にかけて子どもの性的欲望・現象はいかに語られてきたのか―	平成30年3月23日
	山村　奨	近代日本の陽明学理解の系譜	平成30年3月23日
平成26年度	坂　知尋	地獄の鬼婆から浄土の導き手へ：文学、図像、儀式、信仰実践における奪衣婆の表象についての考察	平成31年3月22日
	大石　真澄	映像内要素の構成・配列とその理解実践から見た1970～80年代日本のテレビCM	令和2年9月28日
	Gouranga Charan Pradhan	19世紀末・20世紀初頭の英米における『方丈記』の受容 ―夏目漱石の「英訳方丈記」を中心に―	平成31年3月22日
	君島　彩子	平和祈念信仰における観音像の研究	平成31年3月22日

平成26年度	春藤　献一	戦後日本の動物愛護 ―動物(犬・猫)愛護運動と動物保護管理行政―1947－2000	令和元年9月27日
平成27年度	片岡　真伊	小説とノヴェルのあいだ―戦後期日本小説の英訳・出版現場の探究―	令和元年9月27日
	田村　美由紀	近現代日本文学におけるディスアビリティとジェンダー ―身体・性・書くこと―	令和3年3月24日
	増田　　斎	遠藤周作と戦後経験―〈踏絵〉と〈転向〉をめぐる戦中派キリスト教作家の文学実践	令和5年9月28日
平成28年度	宋　　琦	江戸時代中後期における神儒仏三教思想 ―形態と構造の分析を中心に―	令和3年3月24日
	単　　荷君	近代青島の都市空間の変容―日本的要素の連続と断絶を中心に―	令和3年9月28日
平成29年度	高　　燕文	「満蒙開拓」をめぐる言説空間―大陸開拓文学を中心に―	令和4年3月24日
	龔　　婷	都市平安京の様相―八世紀末から十二世紀初頭までの実態を中心に	令和6年3月22日
平成30年度	陳　　藝婕	日本で見た西洋：傅抱石が受けた西洋影響に関する研究	令和4年3月24日
	久葉　智代	日本古代における空間認識	令和5年3月24日
	宋　　丹丹	身体と心性の視点からみた岩石伝承―通過儀礼を中心に	令和5年9月28日
平成31年度	葉　　暁瑶	京都の場から読む川端康成文学―戦中期・戦後期を中心に	令和4年3月24日
	虞　　雪健	日本古典文学における中国夢遊物語のアダプテーション	令和6年3月22日

（平成４年度入学者からの累計）以上71名

論文博士

（授与日付順）

氏　　名	論文題目	学位授与日
王　　勇	聖徳太子と中国文化―歴史を動かした慧思後身説	平成8年9月30日
シワニ・ナンディ	Socio-Technological Issues of Technology Transfer; A Specific case study of the Maruti-Suzuki Collaboration	平成9年3月24日
マノジ・L.シュレスタ	企業の多国籍化と技術移転―ポスト雁行形態の経営戦略	平成9年3月24日
鈴木　貞美	梶井基次郎研究	平成9年3月24日
伊藤　賢次	東アジアにおける日本企業の経営―経営のグローバル化と「日本的経営」の移転	平成10年3月24日
北川　勝彦	日本―南アフリカ通商関係史研究	平成11年3月24日
胡口　靖夫	近江朝と渡来人―百済鬼室氏を中心として	平成11年3月24日
高田　康孝	生活文化と世相の変容に関する研究―20世紀日本における高度経済成長期を中心に	平成11年3月24日
濱口　惠俊	日本研究原論―「関係体」としての日本人と日本社会	平成11年9月30日
チャオ　埴原　三鈴	Japan Literacy in Australia―A Changing Demand over Eighty Years	平成13年9月28日
北川　淳子	The Nature and Development of Chestnut (Castanea crenata) and Horse Chestnut (Aesculus turbinata) Culture in Japan	平成16年9月30日
岡村　敬二	日満文化協会の歴史―創設から解散まで	平成18年3月24日
香川　雅信	日本人の妖怪観の変遷に関する研究―近世後期の「妖怪娯楽」を中心に	平成18年9月29日
山口　欧志	古代社会の景観考古学的研究―遺跡のデジタルドキュメンテーションと景観分析―	平成23年9月30日
姜　　鶯燕	徳川幕臣の身分的変容に関する研究―いわゆる「御家人株の売買」の問題を中心に―	平成24年9月28日
柴田　依子	ポール＝ルイ・クーシューと日本―その生涯とフランスにおける俳句受容	平成25年3月22日
野呂田　純一	幕末・明治の美意識と美術政策	平成25年3月22日
青野　正明	朝鮮総督府の神社政策と国家神道の論理―1930年代を中心に―	平成26年3月20日
根川　幸男	戦前・戦中期ブラジルにおける日系移民子弟教育の史的研究	平成26年3月20日
金　　炳辰	革命的サンディカリスト大杉栄 ―「生の創造」に基づいた革命展望―	平成26年3月20日
コルネーエヴァ・ スヴェトラーナ	江戸時代前期の喧嘩口論事件の処理に関する歴史社会学的考察 ―盛岡藩と加賀藩の事例を中心に―	平成26年3月20日
石川　　肇	舟橋聖一論 ―「抵抗の文学」を問い直す	平成27年3月24日
門脇　朋裕	近世前期における幕府全国法令の伝達・施行に関する研究	平成29年9月28日
長尾　洋子	〈うたの町〉をめぐる近代の空間誌―おわら風の盆の半世紀に耳を澄ます	平成30年3月23日
マシュー・ラーキング	The Pan Real Art Association as an Early Postwar Avant-Garde of Nihonga	平成30年3月23日
石川　　巧	戦中・戦後の稀覯雑誌と出版文化に関する研究	平成30年9月28日
松宮　貴之	近現代中国の「経世致用」思想と書法への展開―郭沫若を中心として	令和2年3月24日
篠崎　敦史	平安時代の国際関係と外交の研究 ―古代から中世移行期における東アジアとの交流の歴史的意義―	令和3年3月24日
山本　忠宏	カメラを持ったまんが ―「映画的」なまんが表現における「分析・実験・教育」の方法論的実践―	令和6年3月22日

以上29名

入学者状況と修了者の進路

● 入学者状況

令和５～７年度（４月入学）入学者選抜実施状況

年　度	入学定員	志願者	合格者	入学者	性別		外国人	有職者
					男	女		
令和７	３名程度	4	1	1	1	0	0	1
令和６	３名程度	4	1	1	0	1	0	1
令和５	３名程度	9	3	3	0	3	2	1

※令和４年度までは、国際日本研究専攻

● 国別在学生

（令和７年４月１日現在）

	日　本	中　国	合　計
１年次	1	0	1
２年次	1	0	1
３年次	3	7	10
合　計	5	7	12

● 修了者の進路

東京大学・大阪大学・九州大学・岡山大学・長崎大学・大阪公立大学・奈良県立大学・
島根県立大学・立教大学・京都精華大学・帝京大学・上海大学・雲南大学・曲阜師範大学・
日本学術振興会・長崎県教育委員会・国際日本文化研究センター　等

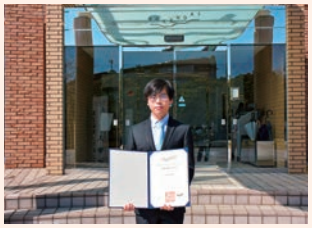
修了生からのメッセージ

虞　雪健（2024年３月学位取得）

国際日本文化研究センター（日文研）に設置された総合研究大学院大学 国際日本研究専攻（現・国際日本研究コース）での博士課程（2019年４月入学 2024年３月修了）は、私の研究者人生の飛躍台となり、その類まれな環境が研究活動を後押ししました。

日文研の最大の魅力は、世界中から多様な専門分野の研究者が集い、日常的に生まれる知的な交流にあります。国内外の碩学との共同研究会や国際シンポジウムへの参加は、私の研究方向である日本古典文学や日本演劇に対し、思いもよらぬ多角的な視点と学際的アプローチをもたらしました。指導教官をはじめ先生方は、学生に真摯に向き合い、学問的指導から研究者としての心構えまで薫陶を授けてくださいました。膨大な蔵書や貴重資料を誇る日文研の図書館は研究推進の宝庫で、古典籍から最新研究、デジタル資料への迅速なアクセスは、質の高い博士論文執筆の大きな助けでした。経済面でも政府奨学金、民間助成金など充実した支援を受け、生活の不安なく研究に没頭できたことに感謝します。

ここでの学びは、知識を深めるだけでなく、それを効果的に発信し国内外の学術コミュニティへ貢献する実践の場でもありました。活発な研究発表の機会に恵まれ博士論文を完成できたのも、常に最先端の研究に触れられる環境のおかげです。修了後、短期間ながら日文研の博士研究員として籍を置き、その後中国での学術の道へ繋がったのは、ここで育まれた国際性が開花した証左でしょう。



国際日本研究専攻（現・国際日本研究コース）在学中の日々は、間違いなく私の研究者としての礎を築きました。ここで得た深い専門知識、学際的視野、そしてかけがえのない人的ネットワークは、今後の研究生活における大きな財産です。これからも、ここで培った国際性と学際性を胸に、日本研究の更なる発展に貢献したいと強く願います。

※詳しくは本年度の「学生募集要項」をご覧ください。

● 入学定員

コース	募集人員	基盤機関
国際日本研究	３名程度	国際日本文化研究センター

● 出願資格

修士の学位を有する者又は令和８(2026)年３月までに取得する見込みがある者のほか、本学において修士に相当する学力があると認めた者。

● 選抜の方法

選抜は、第一次選抜(書類選考、修士論文等の審査)、及び第二次選抜(面接)により行います。
※第一次選抜合格者に対して、第二次選抜期日及び時間を通知します。

● 出願期間

令和７(2025)年12月４日(木)から 令和７(2025)年12月10日(水)

● 第二次選抜(面接)及び実施場所

［試験日］ 令和８(2026)年１月26日(月) 【予備日：令和８(2026)年１月27日(火)】
第二次選抜は、第一次選抜合格者についてのみ行います。
［場　所］ 国際日本文化研究センターにて、対面にて実施します。(必要であればオンラインで実施)

● 募集要項請求

日本国内から郵送にて請求する場合

請求者の住所、氏名、郵便番号を明記し、510円の切手を貼付した返信用封筒（角形２号・縦33.2cm 横24cm）を下記宛に送付してください。

国際日本文化研究センター　研究協力課　研究支援係
〒610-1192　京都市西京区御陵大枝山町３丁目２番地　電話：075-335-2052

電子メールにて請求する場合

下記メールアドレスに、以下の必要事項を記入し、送信してください。
総合研究大学院大学　学務課　学生係
電子メールアドレス：gakusei@ml.soken.ac.jp
（受信確認のメールを送付するため、携帯電話のメールアドレスは使用しないでください。）
①郵便番号　②住所　③氏名　④電話番号　⑤希望する募集要項

※なお、受信確認のメールは、原則５業務日以内に送付します。
受信確認のメールがない場合は、お手数ですが、再度、必要事項を送信してください。

アドミッション・ポリシー

● 求める学生像

国際日本研究コースでは、日本研究を広い視野に立って行う学際的研究に強い関心と意欲を有し、本コースの複数の教員から提示された方法論や提供された様々な知見を駆使しながら、一人一人自ら主体的・批判的に総合して独創的な日本研究を成し遂げ、自立した研究者として将来にわたって研究活動を発展させ、日本研究の国際化に貢献できる学生を、国籍や文化背景を問わず、広く求めています。博士後期課程(修士課程修了者を対象とする)への入学が可能です。

● 入学者の選抜について

国際日本研究コースでは、出願書類及び面接により、提出された修士・学術論文等の論文形式、独創性・発展性、論理性・実証性や、志望研究内容の独創性・計画性・将来性、及び出願者のプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、将来性の各項目を評価し、自立的に研究を推進することのできる基礎学力と論理的な思考力を総合的に判定します。

大学院教育 Q&A

Q1. 授業料免除制度はありますか？

A. 経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる方に対し、授業料を免除する制度があります。毎年、前期・後期各１回ずつ申請の機会があり、一定の審査を経て決定されます。

Q2. リサーチ・アシスタント（ＲＡ）制度はありますか？

A. 国際日本研究コースに在籍する大学院生の中から、研究又は教育に係る補助業務を行う者を、ＲＡとして雇用し、コース内において自身の研究を有益に遂行できる体制を作っており、その労働の対価として給与を支給し、経済的支援を行っています。

Q3. 学生が指導を受ける場所は、葉山ですか？京都ですか？

A. 京都です。本コースの基盤機関である国際日本文化研究センターが、研究指導や論文執筆の拠点となります。なお入学式や学位記授与式など全学的な行事は、大学本部である葉山キャンパスで実施されます。

Q4. 出願前に、希望指導教員を決めておく必要がありますか？

A. 希望指導教員を決めたうえで、指導を希望する教員と教育指導領域・内容について面談・メール等により出願前に相談してください。なお基本的に事務担当者から教員紹介はしませんので、本コース概要及びコースホームページ内の教員紹介をご覧ください。

Q5. 遠方在住でも学位取得は可能ですか？

A. 現在も、遠方在住のまま、学位取得を目指している学生は多数います。ただし、授業開講日には必ず登校する必要があります。

Q6. 10月入学はできますか？

A. 10月入学を設けておりません。

Q7. 他コースとの併願は可能ですか？

A. できません。

Q8. 日本学術振興会特別研究員（DC1、2）採用者はいますか？

A. 令和７（2025）年度現在、１名の DC2採用者がいます（令和６（2024）年度採用）。

入学式（総研大 葉山キャンパス）

学際研究論　授業風景

日文研の研究活動について

国際日本文化研究センター（日文研）は、日本文化に関する国際的・学際的な総合研究と世界の日本研究者に対する研究協力・支援を行うことを目的として、昭和62年5月21日、文部省大学共同利用機関として設置されました。平成16年4月からは大学共同利用機関法人・人間文化研究機構を構成する研究所となりました。

日文研の活動は、研究活動（個人研究・基礎研究・共同研究）・研究協力活動・普及活動の３つの柱から成り立っています。これらの中から、特に本コース在学生に関わりの深い活動についてご紹介します。

● 共同研究

日本文化を研究するためには、関係する個別専門分野ごとの成果が着実に積み重ねられなければなりません。併せて専門分野の枠組みを越えて、研究者が相互に知見を高めあう場が必要になります。こうした共同研究の場は、総体として日本文化理解の促進に大きな役割を果たすものと考えています。

また、日文研の共同研究では、日本と異なる知的伝統にたつ海外の研究者との交流をも重視しています。さらに、国際化の時代を迎えた今日、日本文化研究もまた国際化を図ることで時代の要請に応えることができるものと考えます。

このように、日文研の共同研究は、単なる研究成果の交換にとどまるものではなく、専門分野及び知的伝統を異にする研究者たちが研究過程を共有し合うことによって生みだされる創造性こそをめざしているのです。

◆令和７（2025）年度の共同研究は、次の17課題です。

（令和７（2025）年７月１日現在）

ユニット	研究課題	研究代表者
自然観と人間観	口と鼻―人体と外界の接合域の日本文化史	磯田　道史
	町とモニュメント：視覚文化史から見た日本の都市計画と記念	タイモン・スクリーチ
	胎内から墓場まで―現代における死生観の解明	安井　眞奈美
	「島国・日本」再考：移り変わる姿、意識、心象	エドワード・ボイル
	近代日本における仏教と神道の交差―「神仏分離」から再構築へ	守屋　友江
		瀧井　一博
文化と権力	日文研所蔵井上哲次郎関係書簡の研究――国民国家の始発と終焉	磯前　順一
		苅田　真司
	比較のなかの「東アジア」の「近世」―新しい世界史の認識と構想のために―	伊東　貴之
	西洋における日本観の形成と展開	フレデリック・クレインス
	「戦後」と「近代」を超えて――1970 年代日本の国家と社会	楠　綾子
	文化コモンズの生成と変容	山田　奨治
	「知」を編むということ―集輯・編訳・表象にまつわる共創的探究	片岡　真伊
	国家形成のなかの知－比較国制史からの日本論－	瀧井　一博
	13世紀を中心として見たユーラシア東部地域と日本―王権・都・離宮・庭園	豊田　裕章
		伊東　貴之
大衆文化研究の展開	近代東アジア文化史の再構築Ⅱ―20世紀の百年間を中心に	劉　建輝
	異文化媒介者たちの比較史	榎本　渉
	近代日本における「文人文化」の変容	戦　暁梅
	政治と文化の枠を越えた近代日本の国際文化交流の実像―文化外交官・柳澤健の学際的共同研究―	湯浅　拓也
		楠　綾子

『滑稽百鬼夜行絵巻』国際日本文化研究センター
絵巻物データベースより

● 基礎領域研究

このとりくみでは、専任教員が自発的に基礎的な課題を設定し、分野の異なる研究者たちとその能力を共有することがめざされます。一種のゼミナールですが、おのずと超領域的な討議をひきおこし、研究上の新しい課題を浮上させることもあり、その意味で、基礎領域研究とよばれています。

◆令和７年度は、以下の５の基礎領域研究を開催しています。

研究課題	担当教員
韓国語の運用（応用）	松田　利彦
近現代史史料文献研究	瀧井　一博
中国古典学の基礎	伊東　貴之

研究課題	担当教員
日本政治外交史文献・史料講読	楠　綾子
韓国語の運用（入門）	松田　利彦

● 研究会・イベント

国内外の研究者との交流のために、以下のような場を設けています。大学院生、留学生の参加も奨励しています。このほかにもレクチャーやシンポジウム等を開催しています。

● 日文研フォーラム

日文研に滞在中の外国人研究者による日本研究の成果を市民に紹介し、交流の一助となることを主な目的とする催しです。1987年の設立以来、京都市中心部の会場で開催しています。

● 日文研木曜セミナー

研究者の交流を目的に、主に日文研教員が最新の学術テーマを掲げて研究発表する企画です。

● Nichibunken Evening Seminar

研究のため日文研に滞在中の外国人研究者が、英語で研究成果を発表する企画です。

● 国際シンポジウム等

日本の文化、社会に対する世界各国の関心の高まりにともない、研究者の問題意識、研究方法も著しく多様化してきています。このような状況に対応するため、主として日文研での共同研究をテーマに、国際シンポジウムを実施し、日本研究発展のための国際的な討論の場を設けています。

このほか、日文研では、海外においても研究活動・研究協力活動を行うため、海外シンポジウム・海外研究交流シンポジウム・海外における日本研究会等を展開しています。

本コースの在学生は、これらの国際シンポジウム等への参加に、各種の便宜がはかられています。

国際シンポジウム

国際シンポジウムでの大学院生の発表

日文研の図書・資料等

● 図書館

日本研究に必要な各種資料を幅広く収集し（資料約60万点）、国内外の研究者の利用に供するとともに、様々な情報を提供しています。

図書資料館、第二図書資料館、および平成26年に新設された第三図書資料館には合わせて約70万冊が収容可能な固定書架・電動集密書架のほか、貴重図書室、地図資料室、研究用個室、グループ研究室、マイクロ資料室等が配置されています。

資料の収集方針

1. 外国語で書かれた日本研究図書および訳書の網羅的収集

日文研では標記資料を「外書」と呼び、その網羅的収集に努めており、図書館蔵書の特色のひとつとして内外から高い評価を得ています。

2. 日本研究に必要な基本図書・雑誌の収集

国内外を問わず、日本研究を行ううえで必要な図書・雑誌は「基本図書」として積極的に収集しています。

3. 日本研究に関する文献目録、索引等の網羅的収集

日本研究を進めるうえで必要な文献を探すツールとして、各種文献目録や索引等を網羅的に収集しています。

4. 視聴覚資料

妖怪、浮世絵、春画、古地図、DVD・CD などの映像音響資料を積極的に収集しています。

資料の利用

日文研に所属する研究者・学生等は、日文研が所蔵する資料を、貴重書等の例外を除いて自由に利用できます。外部の方でも、学術研究・調査等を目的とする場合であれば、事前申請のうえ閲覧が可能です。日文研が所蔵する資料は、インターネットを通じて外部からも検索でき、NACSIS-ILL（図書館間相互利用制度）にもとづいて日文研以外の機関から文献複写や現物貸借を申し込むこともできます。

職員によるサービスは、平日午前９時から午後５時までです。ただし、日文研に所属する研究者・学生等は、平日は午後９時まで、平日以外でも午前９時から午後９時まで利用できます。

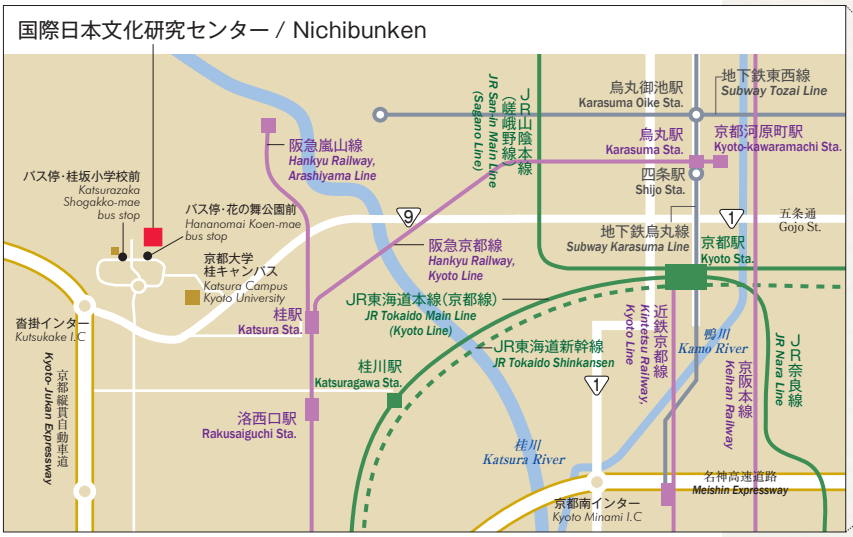
● 日文研のデータベース一覧

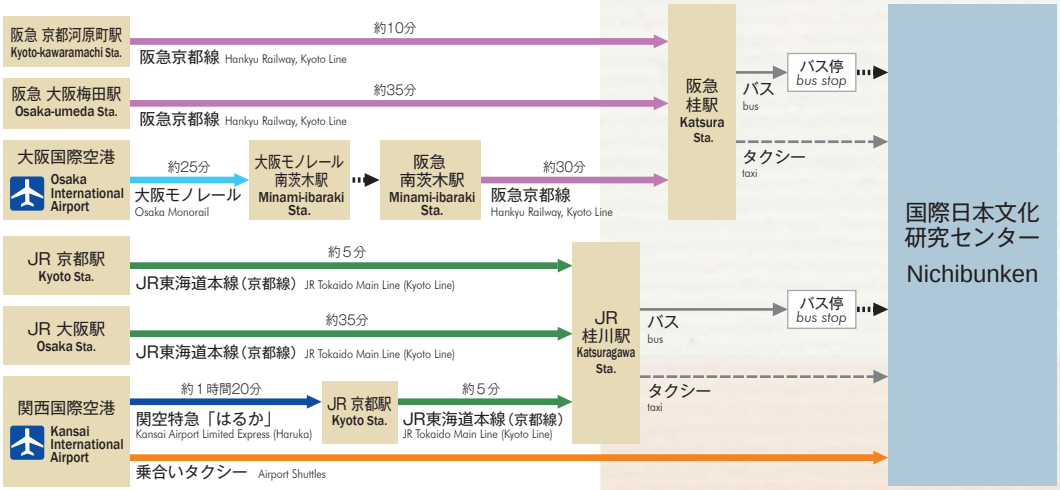
井上哲次郎宛書簡	在外日本美術	日本関係欧文図書目録
艶本資料	所蔵地図	俳諧
怪異・妖怪画像	西洋医学史古典文献（野間文庫）	平安京都名所図会
怪異・妖怪伝承	摂関期古記録	平安人物志
外像	宗田文庫図版資料	都年中行事画帖
古写真	日文研デジタルアーカイブ	連歌
古事類苑ページ検索システム	日本関係欧文貴重書	和歌

他

https://www.nichibun.ac.jp/ja/db/

『滑稽百鬼夜行絵巻』国際日本文化研究センター
絵巻物データベースより





関西国際空港から
・乗合いタクシー（要予約）で約150分

ＪＲ京都駅（烏丸中央口）から
・京阪京都交通バス「21」「21A」「26」「26B」で約45分
・タクシーで約40分

ＪＲ桂川駅から
・ヤサカバス「1」「6」で約30分
・タクシーで約20分

阪急桂駅（西口）から
・京都市バス「西５」「西６」で約30分
・京阪京都交通バス「20」「20B」で約20分
・タクシーで約15分

※バスはいずれも「桂坂中央」行き、「桂坂小学校前」又は「花の舞公園前」下車で徒歩約５分

SOKENDAI **総合研究大学院大学**
〒240-0193 神奈川県三浦郡葉山町（湘南国際村）
TEL 046-858-1500（代表）
https://www.soken.ac.jp/

日文研 **国際日本文化研究センター**
〒610-1192 京都市西京区御陵大枝山町3丁目2番地
TEL 075-335-2052 / E-mail senkou@nichibun.ac.jp（大学院担当）
https://www.nichibun.ac.jp/ja/